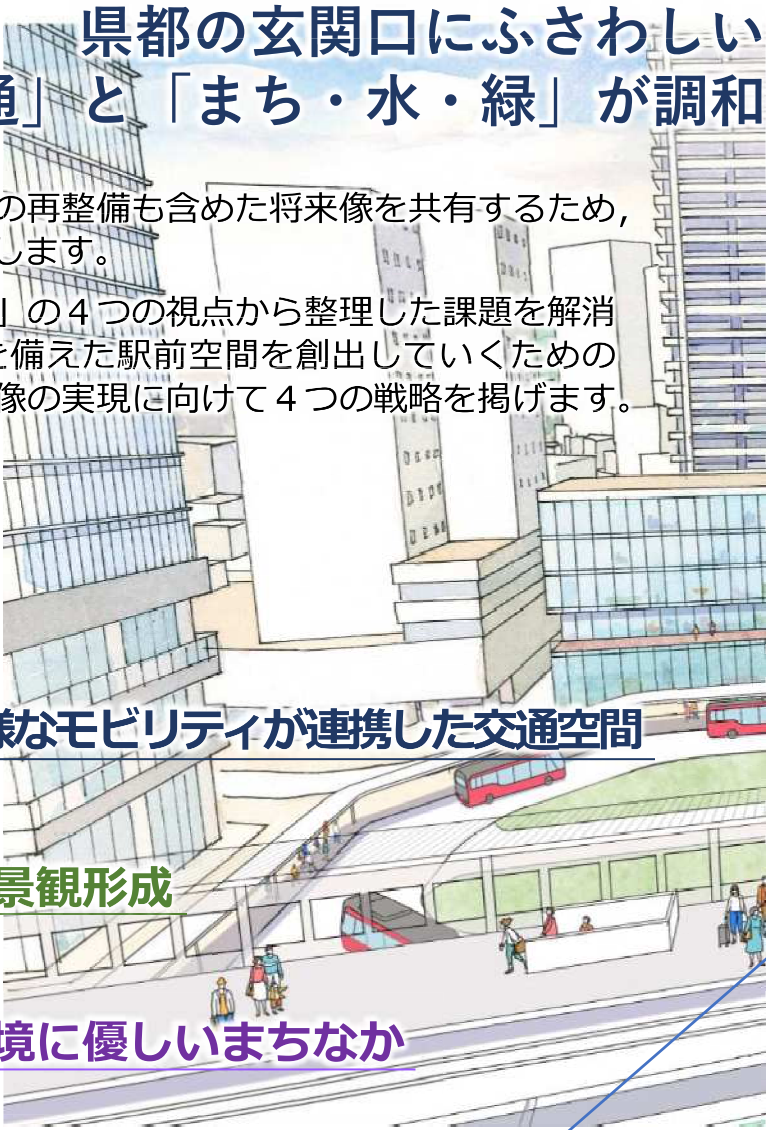
3-1　駅西口周辺地区の将来像（2050年頃）



県都の玄関口にふさわしい「交通」と「まち・水・緑」が調和

- 駅前広場だけでなく，周辺の民間街区の再整備も含めた将来像を共有するため，将来像は，３０年後の**２０５０年頃**とします。
- 「空間」「交通」「景観」「社会状況」の４つの視点から整理した課題を解消し，県都の玄関口にふさわしい風格を備えた駅前空間を創出していくための「将来像」を以下のとおりとし，将来像の実現に向けて４つの戦略を掲げます。

空　間
人中心の新たな「駅まち空間」

交　通
誰もが安全・安心に移動でき，多様なモビリティが連携した交通空間

景　観
水と緑を活かした統一感のある景観形成

社会状況
社会変化に対応できる，人と環境に優しいまちなか

まちなかと駅をつなぐ周辺民間街区と一体となった緑あふれる人中心の居心地の良い空間

図3.2 1階 田川側から駅舎方向（アイレベル）

風格とにぎわい溢れる した人中心の居心地の良い空間

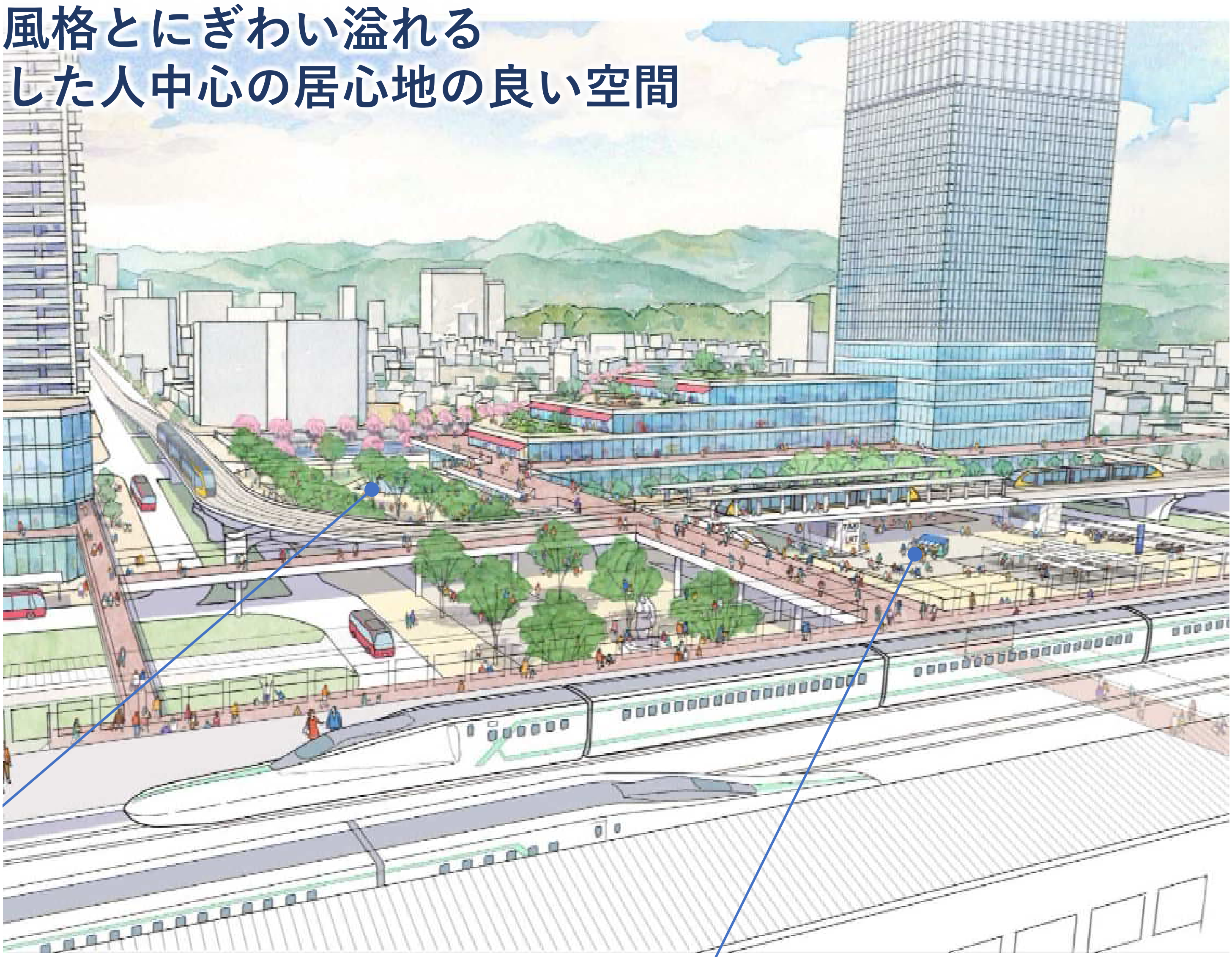


図3.1 JR宇都宮駅西口周辺地区の将来イメージ（令和6年10月作成）

ライトライン，鉄道，バス，タクシーなどの各交通モードの利用者が行き交う新たな駅前の顔となる空間

図3.3　2階 東西自由通路出入口付近より北方向（アイレベル）

3-2　駅西口周辺地区の構造イメージ

○駅まち空間を中心とした４つの軸

- 将来像を実現するため，駅や駅前広場と周辺街区を一体的に捉えながら，駅前広場などの「駅まち空間」を中心に，周辺街区との繋がりを強化するため「大通り軸」「東西軸」「南北軸」を形成します。

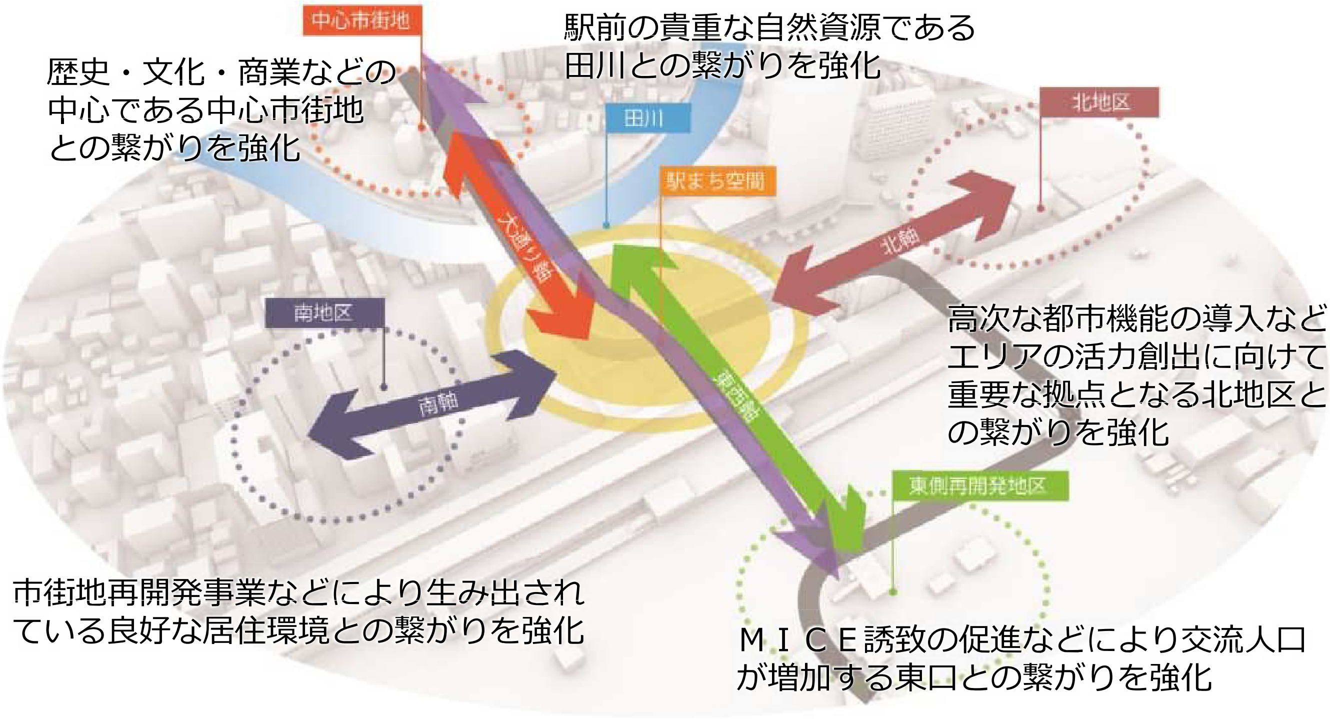


図3.4 構造イメージ（駅まち空間を中心とした４つの軸）

駅まち空間

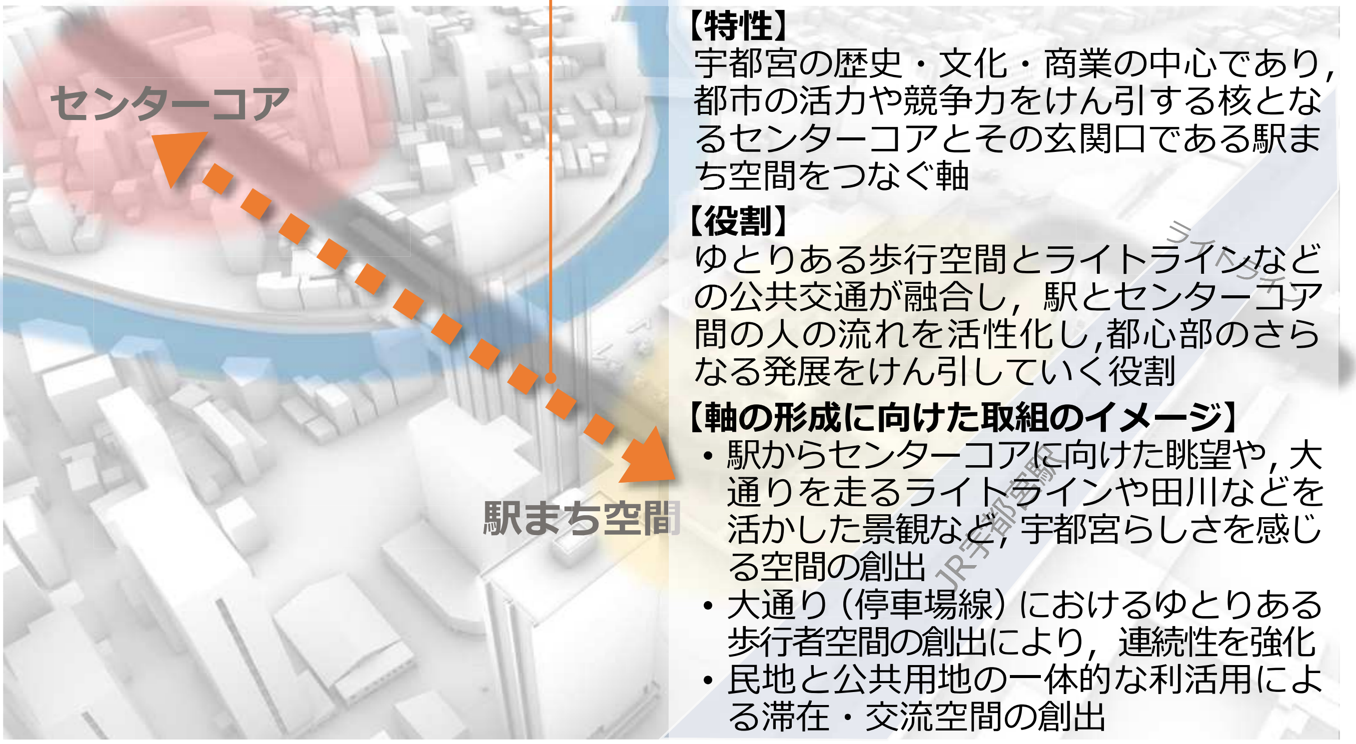
【特性】

様々な交通モードが集中する重要な交通結節点であるとともに，多くの人々が行き交う広域的な交流拠点

【役割】

駅まち空間を中心に東西南北に伸びる「４つの軸」を意識した再編を進めることで，周辺街区との繋がりを強化し，人々の交流とより一層のにぎわいの創出，さらには周囲へその効果が波及するような空間を創出

大通り軸



【特性】

宇都宮の歴史・文化・商業の中心であり，都市の活力や競争力をけん引する核となるセンターコアとその玄関口である駅まち空間をつなぐ軸

【役割】

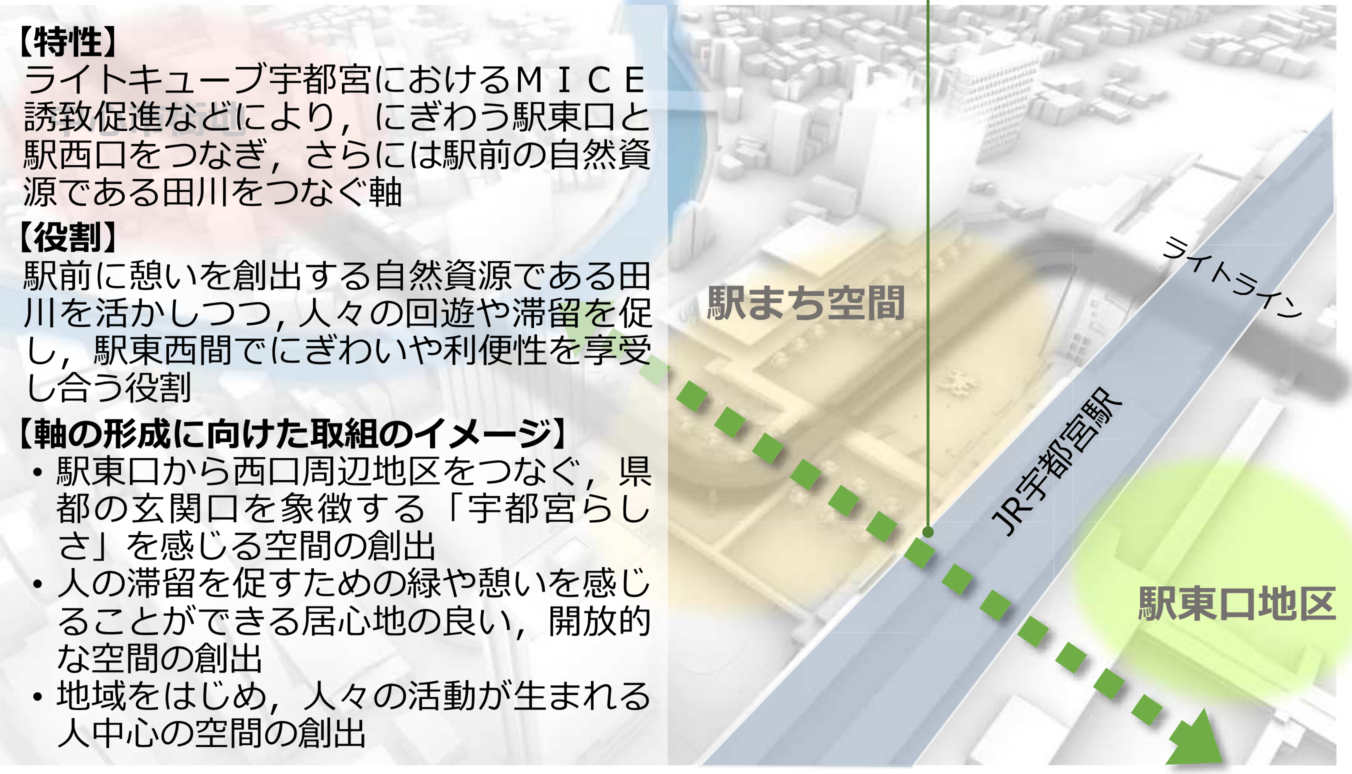
ゆとりある歩行空間とライトラインなどの公共交通が融合し，駅とセンターコア間の人の流れを活性化し,都心部のさらなる発展をけん引していく役割

【軸の形成に向けた取組のイメージ】

- 駅からセンターコアに向けた眺望や,大通りを走るライトラインや田川などを活かした景観など,宇都宮らしさを感じる空間の創出
- 大通り（停車場線）におけるゆとりある歩行者空間の創出により，連続性を強化
- 民地と公共用地の一体的な利活用による滞在・交流空間の創出

図3.5 大通り軸

東西軸



【特性】

ライトキューブ宇都宮におけるＭＩＣＥ誘致促進などにより，にぎわう駅東口と駅西口をつなぎ，さらには駅前の自然資源である田川をつなぐ軸

【役割】

駅前に憩いを創出する自然資源である田川を活かしつつ,人々の回遊や滞留を促し，駅東西間でにぎわいや利便性を享受し合う役割

【軸の形成に向けた取組のイメージ】

- 駅東口から西口周辺地区をつなぐ，県都の玄関口を象徴する「宇都宮らしさ」を感じる空間の創出
- 人の滞留を促すための緑や憩いを感じることができる居心地の良い，開放的な空間の創出
- 地域をはじめ，人々の活動が生まれる人中心の空間の創出

図3.6 東西軸

3-2 駅西口周辺地区の構造イメージ

北軸

【特性】
高次な都市機能の導入など駅西口周辺地区の活力創出に向けて，北地区と駅とのつながりを強化するための軸

【役割】
エリアの魅力向上に向けて重要な拠点である北地区とのつながりを強化するため，ゆとりある歩行空間の確保などにより，人の流れを活性化し，賑わいを創出する役割

【軸の形成に向けた取組のイメージ】
- 民地と公共用地の一体的な利活用による連続性とゆとりある歩行者空間の創出
- 駅まち空間における自動車の流入抑制に資する駐車場の適正化
- エリアの活力創出に向けた低未利用地の利活用

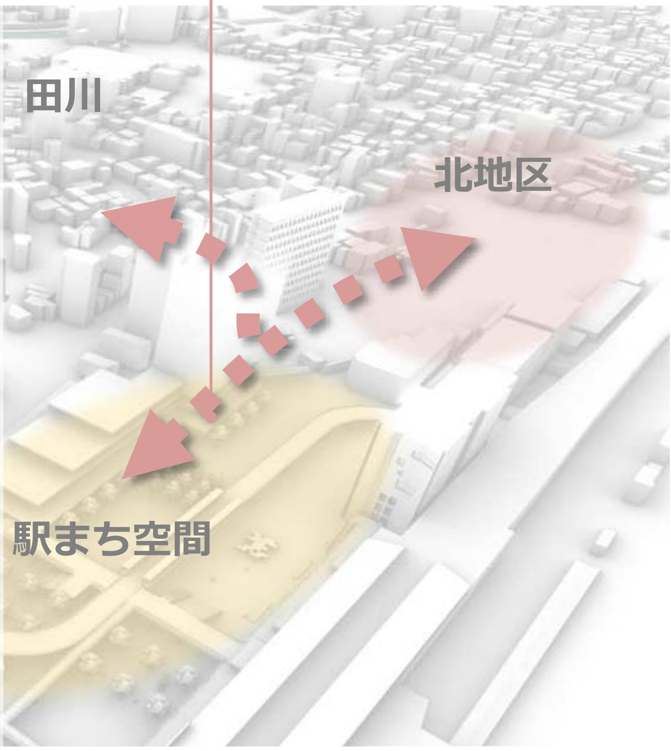
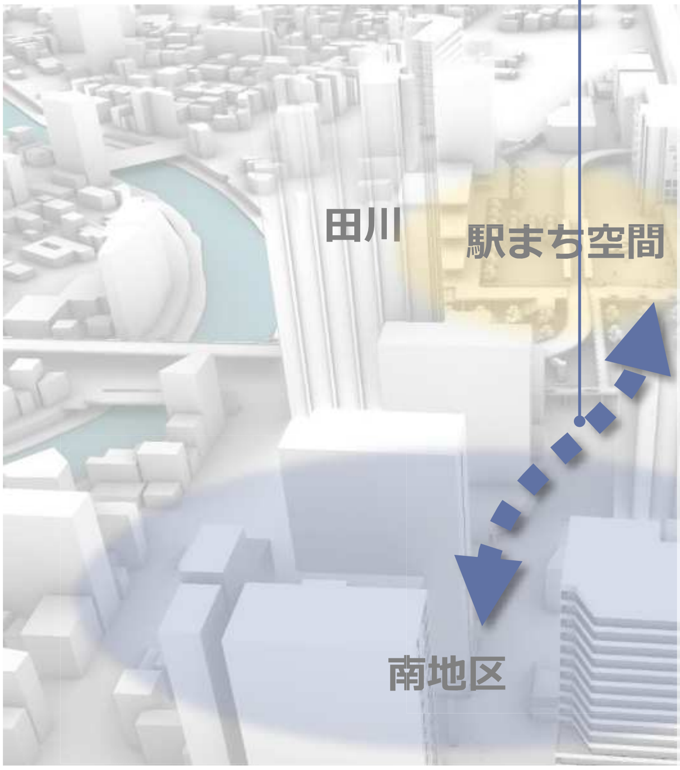


図3.7 北軸

南軸



【特性】
市街地再開発事業などによって生み出されたゆとりある歩行空間や緑を感じる沿道などによって，住宅や宿泊施設などの居住空間と駅をつなぐ生活空間となる軸

【役割】
民間空地や共用スペースを有効活用した豊かな生活空間を創出するなど，街路空間を活用しながら居住環境を整えつつ，自動車に依存しないライフスタイルの実現など，まちなか居住を推進する役割

【軸の形成に向けた取組のイメージ】
- 民地と公共用地の一体的な利活用による滞在・交流空間の創出
- 周辺の市街地再開発事業等による統一感のある景観の形成
- 道路の特性を踏まえて，交通空間と歩行空間が共存した空間活用（荷捌き，防災，地域コミュニティなど）

図3.8 南軸

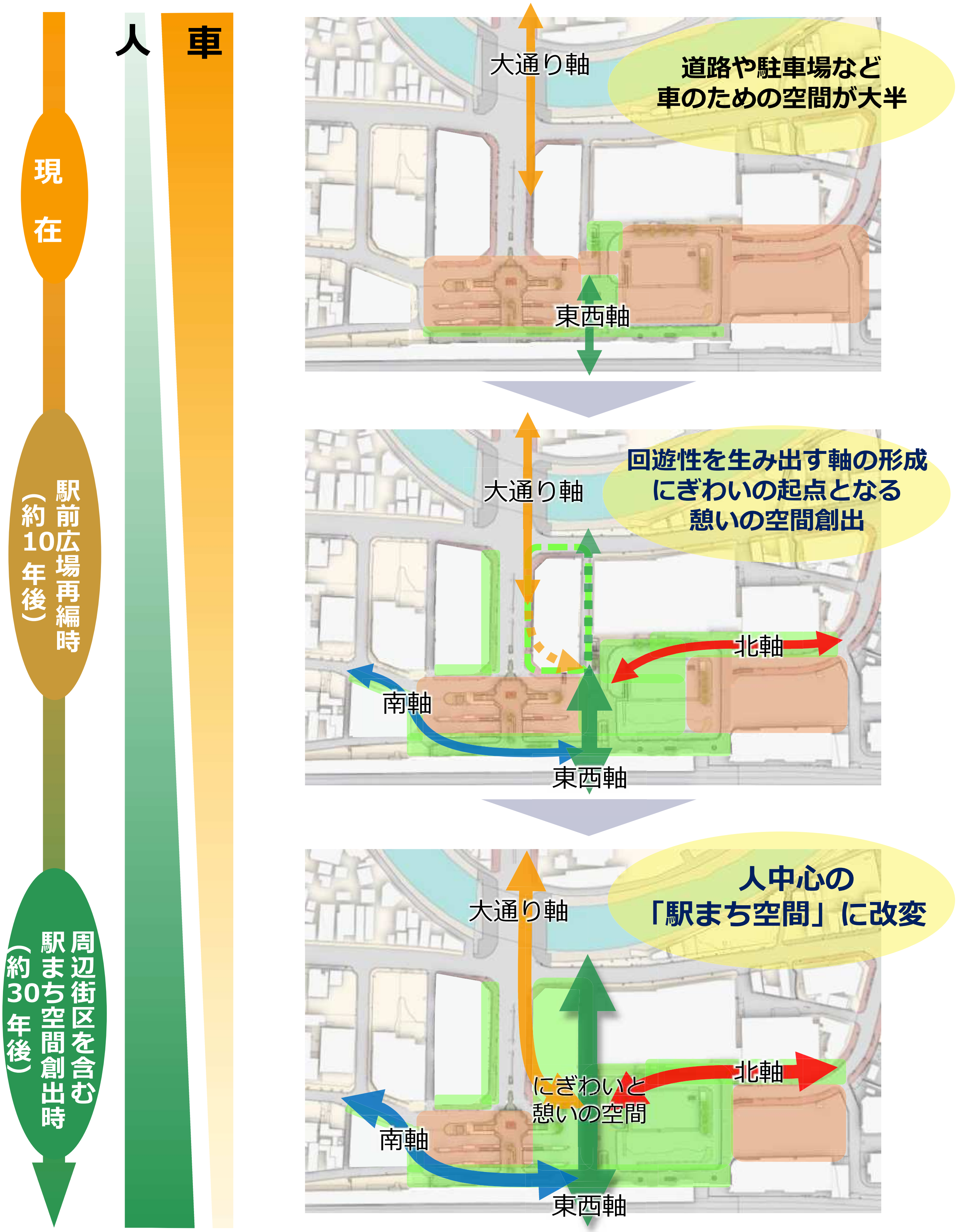


図3.9 官民一体で進める人中心の「駅まち空間」形成の流れ